

くなる♡♡

「んぐッ♡う…ッ♡やめ…ッ♡……っ見ら、
れたら……あッ♡やばい、だろ…っ♡…ン
う！♡♡」

カリッ♡カリッ♡カリッ♡

「んぐ〜〜〜ッッッ♡♡♡」

腰ががくがく♡打ち振られそうなのを、俺は
必死に我慢する♡♡

「もっと僕のことだけ見てくださいよ♡周り
を気にする余裕あるなんて……ひどいじゃな
いですか♡♡」

「ひんぐッ！♡♡♡」

カチッ♡硬質なスイッチ音の次に、

ウーーーーー♡かすかなモーター音♡

尻穴のディルドが振動をはじめたのだ♡

「昨晚も言いましたけど……♡これは僕のチンポを型取りして3Dプリンタで自作したもののなんですよね♡♡」

「んうッ♡♡ンッ♡♡ン~~~~ッ♡♡」

そうだ……♡こいつのチンポはこんなふうに先端が^{えぐ}抉れていて♡ひょろりとした背格好に似合わず陰莖だけはアホみたいにぶっとい♡そんな最上級にエレクトした化学教師のものが、今は微細な振動で俺の肉洞を^{うが}穿ってくる♡♡

「振動させるだけですから、内部の構造を組^く

むのはさほど難しくありませんでした♡どう
です？♡昨晚ホテルで愛し合ってお別れした
後、家でこれ使ってオナニーしました？♡」

「ひ…♡う…♡するわけ…っ♡な……っ」

「嘘はダメですねえ♡」

「あッ!?!♡♡」

ウゝゝゝゝ♡♡

モーター音がもう一つ増えて♡おまんこの極
太イボイボバイブまでもが震えだす♡

(クソ…っ、クソお……っ♡♡)

二つの玩具の遠隔操作リモコンを持つ背後の
男が心底恨めしい♡

「腰ガクガク♡しちゃってますし、ばれない